

4 トルコギキョウ定植本数の検討

1 課題を取り上げた理由及び目的

徳之島のトルコギキョウ定植本数は、県の指針と比べ疎植である。徳之島の農家慣行より1.4倍定植本数を増やした栽培が可能か実証し、単収向上を図った。

2 実証の概要

- (1) 調査品種 : ポレロホワイト
 (2) 作型 : 2月出荷型(定植9月29日)
 (3) 試験区の構成

	作式	定植本数
試験区	10cm角×6目(1-1-0-0-1-1)	22,400本/10a
慣行区	14cm角×4目(1-1-1-1)	16,000本/10a

3 調査結果

(1) 生育調査

- ・開花1週間前に、立毛調査をした。
- ・試験区は、慣行区と同程度の草丈であった。
- ・着花数も着蕾数も差が無かった。
- ・試験区と慣行区で、開花時期も同時期であった。

	品種	平均草丈 (cm)	花 (個)	蕾 (個)	備考
試験区	ポレロホワイト	77	5.1	5.6	
慣行区	ポレロホワイト	74	4.5	5.9	

※2月7日時点の立毛調査

(2) 売上

- ・試験区と慣行区で規格割合に大きな差は無く、密植することで売り上げが約70万円上がる見込みである。

	規格割合 (%)			売上 (円)	差額 (円)
	80cm	70cm	60cm		
試験区	30	70	0	2,133,040	692,640
慣行区	10	70	20	1,440,400	

※R3年度実績より市場出荷率65%、80cm規格150円、70cm規格145円、60cm規格110円とする

※2月7日時点の立毛調査



10cm角×6目ネット



定植2ヶ月後(1番花発蕾期)



開花2週間前

4 考察

- ・慣行より1.4倍の定植本数でも、慣行と同程度の草丈と品質であり、密植が可能である。
- ・初期生育も良好で、定植本数増加による影響を受けていない。
- ・定植本数を増やした栽培でも上位階級率は慣行区と差がないため、定植本数増により売上の増加が見込める。

5 残された課題

- ・2度切り目の影響把握
- ・3・4月出荷型の生育特性把握

6 実施者 脇田 千尋